

増資と新たなスポンサー支援が浮上

（株）よしかわ杜氏の郷の再建築として

（株）よしかわ杜氏の郷の経営問題で市側は、中小企業診断士による同社の経営診断結果を公表しました。先月31日の市議会文教経済常任委員会の場でのことです。

診断結果は先月11日に提出されたといいますが、その概要についてお知らせします。現状分析では、当初の過大投資と甘い事業計画が窮境に陥った最大の原因としてあげられました。同時にその背景には経営責任の所在があいまいであるなど第3セクター特有の問題点があるとも指摘されました。会社の再生可能性については、過剰債務をどうするか（財務の再構築）、事業をどう建て直すか（事業の再構築）、この解決が必須の条件といえます。その上で、①市とJA、会社役員などの役割と責任を明確にし、ながら、企業体力に合わせた返済負担にしてい、②マネジメント力・販促力・資金力を強化し、経営力、競争力を向上させる、③市、JAのほか、新たなスポンサー企業などから支援を受ける、ことなどが今後の方向性として示され

ました。

こうした診断を受け、市側は、財務の再構築のために「損失補償前に市の増資による長期借入金金の返済」、事業の再構築のためにJAの支援継続と「新たなスポンサー企業、専門家の参画」が想定される最良の手法ではないかと考え、JA、会社側と協議していることを明らかにしました。従来の方針を転換し、増資を選択した理由は、市が損失補償をした場合、補償額の4割にあたる金額が課税され、税金倒産する恐れがあるとのことでした。JA、会社側との協議は大詰めを迎えており、具体的な内容は11月18日開催予定の文教経済常任委員会で明らかにするとされています。

委員からは「診断はきわめて厳しい内容だ。人件費負担や金利支払い繰り延べ、債権放棄を含めて、JAの経営への積極関与を求めざるべきではないか。さらに、経営者の責任の所在をはっきりさせ、私財の提供の可能性も含めてそれ相応の責任をきちんと果たさせることを求めるべきだ」「経営責任は最後まで強く求められるべきだ」「（増資という選択をした場合）今後の市民の負担がどうなっていくか見えない」「責任をとるべき人は多数いる。根本的には行政の責任がある。当初の計画がずさんだった」な

ど今回も厳しい意見が相次ぎました。村山副市長は審査の終盤、「情報の公開と説明をやっていく。その中で地域から答えが上がってくるのが行政のありようだ」とのべました。これは正論です。気がかりなのは、時間があまりないことです。関係住民の声を十分聞いて、住民の意思に基づいて対応できるかが問題です。

東京吉川会に100人

「これ、実家の隣のばちやにやってくんない」そう言って、Mさんは小さなメモ用紙に書いた手紙を私に預けました。ふるさとの人たちと交流をする中で、子ども時代にお世話になった近所の人々のことを思い出されたのでしようね。私も胸が熱くなりました。

東京吉川会は2日、16回目の総会・懇親会でした。交流の深まりと発展の可能性を感じた会でした。



日本共産党議員団議会報告会

日時 13日(木)午後7時から
場所 吉川コンプラ3階大会議室

議員団4人全員が参加し、よしかわ杜氏の郷問題を中心にスライドを使って報告します。報告時間は短くし、皆さんのご意見をお聞きする時間を多くとりたいと考えています。お寄せいただいたご意見・ご提案は、市長に申し入れる新年度予算要望などに反映させます。ぜひお出かけください。



文化展にぎわう

押し花、写真、絵画など今年も力作ぞろいでした。出展者は、作品を他人から見てもらい、評価してもらおうのが楽しみです。会場では出展者同士で語り合う光景があちこちで見られました。3日撮影